



本屋の情報はこちら



地域で愛される本屋にしたい

古賀 詩穂子さん

金山駅近くに「TOUTEN BOOK STORE」を開業した市出身の古賀詩穂子さん。店名は、忙しい日常の中でほっと息つき、気持ちを入れ替えられる生活の中の『読点』のような場所にしたいとの思いを込めて名付けたそう。『本屋好きな人たちとのつながりが増え、常連さんでもできました』と喜びます。

子どもの頃から本が好きだった古賀さんは、大学卒業後、本の流通を担う出版取次会社に就職します。名古屋市内の本屋を営業で巡る中で、売り物は同じでも店ごとに違う色が出せる本屋の面白さに魅了された古賀さんですが、同時に本屋が減っていく現状も痛感。このままではいけないと「自分で本屋を開こう」と思うようになります。「まずは個人でやっている本屋の現状を知りたい」と本屋を経営している人をゲストに呼んだトークイベントを開催。実際に働いている人から本屋を続けていくことの厳しさを聞くと、「やっぱり本屋を開きたい」との思いが勝り、修行を積むために本屋の企画・運営を行う東京の企業へと転職します。

「本屋をやっていく上で何かヒントになれば」と本屋同士の座談会や街の本屋へのインタビューなどを一人で企画・編集し、本屋好きでない人にも手にとってもらおうと各地で配布します。

東京で3年経験を積んだ古賀さんは帰郷し、クラウドファンディングも活用しながら資金を集め、1年で念願の本屋を開店します。「誰でも気軽に立ち寄れる本屋にしたい」とこだわった店内には、雑誌や絵本、哲学書など幅広いジャンルの本を用意。「来た人にわくわく感を伝えるため、常にアンテナを張って、新しいことを取り入れたい」という古賀さんは、コーヒーやビールを飲みながら本を読むスペースを作ったり、ネット通販を始めたり、著者を呼んだイベントを企画したりと、さまざまなことに挑戦します。

「本屋は、自分の知らないことに気付けてくれたり、視野を広げたりできる場所」と笑顔を見せる古賀さん。今後について「開業がゴールではなく、地域で愛され続けるため、持続可能なまちの本屋を目指したい」と目を輝かせます。一つの大きな夢をかなえた古賀さんは、さらなる目標を見据えて挑戦し続けます。



▲カフェも併設している店内

